

## コロナ禍で優れた機能性が再評価 市場規模は800億円台を堅持

不足しがちな栄養素を手軽に補給できることから、老若男女問わず支持されてきた青汁。昨今はコロナ禍による健康意識の高まりから、その機能性が再評価される向きもあるようだ。本紙では、令和元年度の青汁市場を800億円超と推算。令和2年度はインバウンド需要の喪失をはじめ、大きな打撃を受けたものの、国向けでは通販ルートを中心に堅調な推移を見せたようだ。当面は「ウイズコロナ時代」が続くと思われるが、青汁商材の存在感はさらに拡大しそうだ。

近年の青汁市場は、メインターゲットである中高年齢に加え、美容やダイエットを訴求する女性や若年層向けの製品が

ネット通販やドラッグストアなどのルートを中心に伸ばしたこと、インバウンドや越境ECをはじめ、海外向けが急成長した点などを挙げ、右肩上がりと言えざる拡大を続けてきた。

昨年来のコロナ禍によって市場の一翼を担ってきたインバウンド需要が大打撃を受けた格好となったが、それでも国内向けの販売や越境EC向けなどが健闘したこと、昨年度の市場規模は800億円前後を堅持したとみられている。

「コロナ禍で離れていた通販顧客が戻ってきた」「リピーター購入の頻度が高まった」といった販売会社や、新規開発の引き合いが増えたという原料サプライヤーの声も聞かれており、コロナ禍という思わぬ形で青汁の有用性が消費者に再評価される格好になった。

青汁市場の活況と相まって市場競争も激しく



マイササなど機能性表示食品として届出受理されている青汁素材もあり、商品開発における一つのポイントになりそうだ。

なっているが、サプライヤー各社では独自の品種や成分、エビデンス、ストーリー性、美味しさなど差別化戦略にまい進。

大麦若葉、ケール、ポタジボウフウ、桑葉、ク

### 胡麻若葉

#### わたまんサイエンス

わたまんサイエンス

(京都市中京区、07

5・2222・7318)は

抗酸化成分・アクトオシドを豊富に含む胡麻若葉「リグ菜」(登録商標)の供給を行っている。胡麻若葉は青汁素材としての新規性が高く、既存製品との差別化や付加価値向上に用いることができるため、コロナ禍においても安定した人気がある。

特有成分のアクトオシドをはじめとしたフェニルエタノイド配糖体については、抗認知症・抗がんなど多くの機能性に関する研究が行われている。一方、現在も大量発現系が構築されていないため、量産化が課題の一つとされてきた。

一方、胡麻若葉は乾燥粉末換算で約1:2%のアクトオシドを含むことから、フェニルエタノイド配糖体の貴重な供給源としても期待されている。